

カリキュラム・マップ(学修成果の構成要素と各授業科目との関係)

※ 学修成果 ⇒ ① + ②の要素で表現	科目名	② 当該分野以外においても普遍的に有用性をもつ能力				
		(論理的思考力) 論理的展開を的確に理解したり、自らの考えを論理的に組み立てたりすることができる。	(コミュニケーション能力) 自らの考えや疑問を相手に分かり易く伝えるとともに、他者との議論を通して協調しながら作業を行うことができる。	(情報活用能力) 情報通信技術等を用いて、多様な情報を収集・分析し、効果的かつ正しく活用することができる。	(総合的問題思考力) 持っている知識、能力等を総合的に活用しながら、多角的な視点から物事を思考し、解決すべき問題の本質を見極め、それに取り組むことができる。	(能動的学修姿勢) 自ら解決すべき問題・課題を見つけ、それに取り組む姿勢を備えている。
① 分野固有の知識・理解及び技術	(語学分野) 実践英語Ia,b,c,d		○			
	論文読解、論文公表、学会発表など実践的な英語を修得する	実践英語IIa,b,c,d	○			
	(教養分野) 社会生活に必要な基礎的知識を修得する	基礎ゼミナール	○	○	○	○
		都市教養科目	○			
		情報リテラシー実践I		○	○	
	(専門基礎分野) 数理情報科学全般で必要となる基礎的な知識を修得する。	微分積分 I・II・III	○			○
		線形代数 I・II・III	○			○
		集合と論理	○			○
		解析学入門 I・II	○			○
		離散数学入門	○			○
		確率統計	○			○
		応用数理情報概論 I	○			○
		微分積分 I・II・III 演習	○			○
		線形代数 I・II・III 演習	○			○
		集合と論理演習	○			○
		解析学入門 I・II 演習	○			○
		位相空間論	○			○
		位相空間論演習	○			○
	(専門分野) より専門性の高い数理科学を修得する。	代数学序論	○			○
		代数学序論演習	○			○
		幾何学序論	○			○
		幾何学序論演習	○			○
		数理科学総論	○	○		○
		代数学A・B・C	○			○
		幾何学A・B・C	○			○
		解析学A・B・C	○			○
		数学英語	○			○
		応用数理情報概論 II・III	○			○
		計算の数理 I・II	○			○
		アルゴリズムA・B	○			○
		アルゴリズムA・B演習	○			○
		情報システムA・B	○			○
		情報システムA演習	○			○
	画像の数理	○		○	○	
	代数学特別講義 I・II・III	○			○	
	幾何学特別講義 I・II・III	○			○	
	解析学特別講義 I・II・III	○			○	
(総合分野) 卒業研究を通じて数理科学の実践的な研究力、発表力を修得する。	数理科学特別研究 I・II	○	○		○	